

～えほんだより 2月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「ありのあいたた」

「やっほー」ありさんの大冒険が始まります。

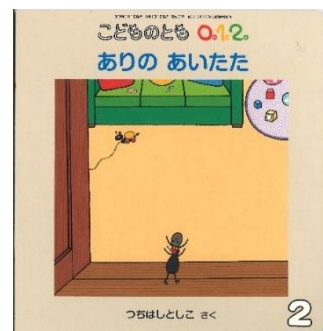
小さなありさんにとっては、どれも大きくなって不思議。

テンポの楽しいことば。はっきりとした色使いが

とても見やすく、からだを使って親子でありさんになりきって遊べる絵本です。

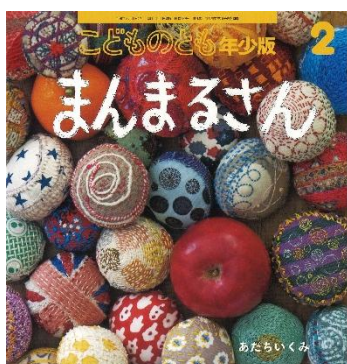
最後は「いたいの　いたいの　とんでけ～」って。

なにがおこるのかな??



2歳児 「まんまるさん」

みんな大好きな「〇まる」のお話。たくさんのまんまるさんが、仲間を探しにでかけます。りんごやたまごにクリームパン・・・もっともっとたくさんあるね。絵本を読んだ後は、お部屋の中をさがしてみましょ。外にも、空にもまんまるさんはあるかしら？同じようでちょっと違う。違うようで同じ形。



3歳児 「くるまをあらおう」

子ども達が大好きなくるま。ごしごし洗いながら、お
おきなくるまを近くで見よう。あれ？タイヤってキ
ザギザしてる。数字はでこぼこ。鏡もあるよ。雨の時に
ガラスをふいてくれる「くろいぼう」はワイパー。くるまの
やねはとっても広い。、タオルでごしごしふくと…僕の
顔が映ってる。うしろのガラスには空が映ったよ。大人
のお仕事は面白くて楽しい発見がいっぱいだね。



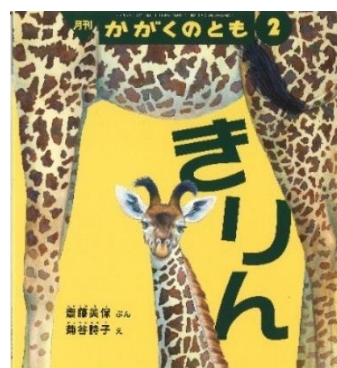
4歳児 「きのめとことり」

「もういいかい」「まあだだよ」えださきについている小さな木の芽と、きたかぜがかくれんぼう?? 春はもう少し先のようにです。一週間、そしてまた一週間。待ちきれない木の芽がぽっかりめをだしてしまいました。すると、次の日は雪が降ってしまいました。

またまた一週間がたち、本当のあたたかい日がやってきて、木の芽たちは次々に芽をだし、森はみどりでいっぱいになりました。こんな風に冬は春へと変わっていくのですね。



5歳児 かがくのとも



「きりん」

アフリカの草原に住むきりんのお話。きりんは地球の中で一番大きいどうぶつです。とげのある木でも器用に食べます。長い首を上手に使って暮らしています。きりんは背が高いだけでなく目もよいので、遠くに見える危険などうぶつにいち早く気

づけます。子どもを狙うものはライオンだって向かっていくお母さんきりんです。そして、夜はぐっすり眠る子ども達が襲われないように、大人のきりんは眠らない。きりんの発見がたくさんの絵本です。

～今月のセレクト～



「いちごばたけのちいさなおばあさん」

いちごが美味しい真っ赤になるのはちいさいおばあさんのおかげ？
いちごばたけの土の中には小さいおばあさんが住んでいました。冬が過ぎ、春が来るのを待つはずなのに、今年はなんだか少しも寒くなりません。百段の階段を上ってイチゴの畑に出てみると…大変だ、いちごの実がなる準備が始まっています。大急ぎでいちごの色を作ります。百段の階段を上ったり下りたりして、とうとう甘くて真っ赤ないちごが出来上がりました。ホッとしてひと眠りしていると…大変です。あたり一面真っ白なゆきのはらになっていました。

せっかく真っ赤にしたいいちごはどうなったのかしら…

2月と言えば「節分」です。

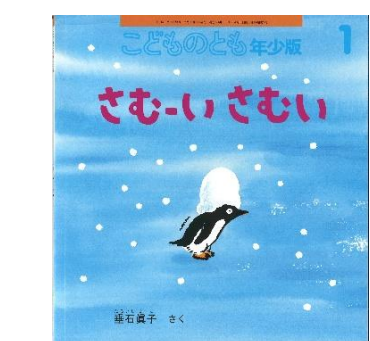
保育園でも豆まきをして鬼退治をします。
行事が理解できるようになるのは幼児に
なってから…ではありますが、
節分に関する絵本は、小さい子向けにも
出ています。

難しい意味は分からなくても、リズムやことばあそびで楽しむ方法は色々です。

恵方巻絵本もありました。一緒に読んで、親子で恵方巻づくりも楽しそうですよ。

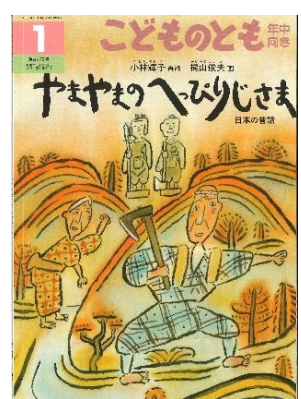


0歳児・1歳児 「ちいさなトリさんがツープーツピー」
ちいさなトリさんとどうぶつたちのなき声の掛け合いが楽しい絵本です。
ツープーツピー わんちゃんにうし、にわとりさん。
おとこのこに「ツープーツピー」と
ちいさなトリさんがなくと
「こんにちは トリさん」ってこたえてくれました。



2歳児 「さむ-い さむい」
雪がつもってさむいさむい。やねをみつけたと思ったら、だれ？じっとしてるとつもっちゃう。やねをみつけたと思ったら、つぎはだれ？わくわくしながら楽しめるお話です。最後はみんな雪の中？それとも…？どんな動物が登場するののお楽しみ。

3歳児 「おなじ」
数は並べ方が変わっても変わらない…同じ。果物は半分こにしたら模様が同じ。
同じ名前でも種類が違う。違うものだと思ったら、同じものでできている。同じジュースでも容器に形によって量が違って見える。「くらべてみる」「違いに気づく」ことが楽しくなる時。身の回りのいろんなものを比べてみよう。「ちがいに」と「おなじ」は簡単だけど難しいね。

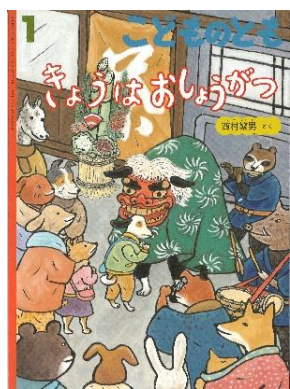


4歳児 「やまたまのへっぴりじさま」
むかしむかし、よくのないうじさまと、よく深いじさまの話。
「ちゅう、ちゅう、にしきさらさら、ごようのまつばら、とっぴんぱらり……ぷっ」やまやまのへっぴりじいはやまのかみが喜ばすようにへをたれた。喜んだやまのかみはお礼に「つづら」をくれる。小さいつづらには食べ物や着物、宝がいっぱい。それを見ていた隣のばさまがじさまを山へいかせました「おおきなつづら」をもらってくるように…。時代や土地のことば「方言」もまた面白い。

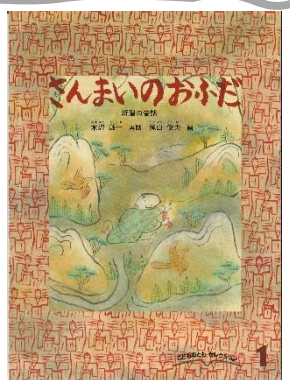
5歳児 かがくのとも 「あかいみと とり」
自然の中には実をつける植物がいっぱい。「誰か種をまくのかな？」
実を食べた鳥は種の入ったふんをしたり、固い種をパイッと口から吐き出したりする。「ナンテンの実」は苦いからちょっとだけ食べて、鳥は遠くへ飛んで行ってふんをする。だからナンテンが広がるんだ。鳥たちによく見える色。まっるい形は鳥のくちばしからつるっと入りやすい形。「とりさん、食べてもいいから種を運んでね」木の実はそんな気持ちなのかな。口の大きさにあった木の実を鳥は選んでいるのかもしれないな。



5歳児 「きょうはおしょうがつ」
日本の文化「おしょうがつ」がいっぱいの絵本です。
初日の出、
「あけましておめでとう」。
おとそにおせち。お雑煮。
年賀状におとしだま。
獅子舞や神社でおみくじ。
みんなでトランプかるた遊び。
こままわしに凧揚げや羽根つき。書初めをしてお正月の「三が日」を過ごしていました。
みんなのおしょうがつ」どんなお正月だったかな？



～今月のセクション～ 「さんまいのおふだ」
はなきりにやまへでかけた小僧。どんどん奥に行くうちに、暗くなり帰りの道が分からなくなった。明かりのついた1軒のうchiがあったので行くと、そこにはしらがのおばばがいた。
おたまをペランペラン、おしりをザランザラン。おばばが怖くて逃げたくてべんじょにいった。そこにべんじょの神様が現れて、「さんまいのふだ」を持たせて逃がしてくれた。1枚目のふだで大きな山、二枚目のふだで大きな川、三枚目のふだで大火事をおこしたけれど、おばばはそれでも追いかけてきた。何とか寺についた小僧。おしょうさまは小僧を隠し、おばばと「じゅつくらべ」をすることにした。さて、和尚さんはどうやっておばばをやっつけたのかな？ちょっと怖いお話。絵からもその怖さが伝わってきます。



ところで、昔話には「怖い話」「残酷な話」が多いと思いませんか？
昔話には「悪いことをするとどうなるか」「約束を守らないと危ない」という〈教訓〉の要素が込められており、怖い場面を通じて子どもたちは「選択」と「結果」の結びつきを感覚的に学び、自分の行動を振り返るきっかけを得るように教育的・道徳的な目的があったとか。近年ではその内容があまり怖くないように、残酷ではないように変えられて世に出回っています。優しい話が増えたということ。それは、学校へ行くことが当たり前になり、道徳的教育が行われる機会ができたからのようです。また子どもの「トラウマ」ということも危惧されてのこと…という説があるようです。でも、やっぱり原作を知ることが大切ですね。私たち大人が「本当のお話」に出会うことが大切ですね。

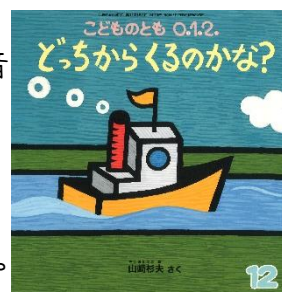


～えほんだより 12月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「どっちからくるのかな？」

う～う～、だだだだー、ゴットンゴットン、パタパタ…
街の中を歩いている時、公園で遊んでいる時、いろいろな音が聞こえていきます。「あれ？どっちからくるのかな？」
「来た来た」「いたいた」こんなやり取り、必ずありますよね。
見開き2面を使って「どっちかな～」「あっ、こっちから」とページをめくる時、わくわく・ドキドキ…楽しくなる絵本です。



2歳児 「やきやき てっぱん」

やきやきてっぱん なにやける？焼いたらおいしいものができあがる。たい焼き、たこ焼き、卵焼き。ホットサンドにお好み焼き。食べるときは熱いけど、鉄板があるとおいしいものができるね。
絵本の中のことばのリズムが歌のようで、とても耳心地のよい絵本です。昔話の歌絵本のような気持ちで、親子で一緒にたのしめよう。作りながら口ずさんでも楽しそうなお話です。

3歳児 「くんくん すぴすぴ」

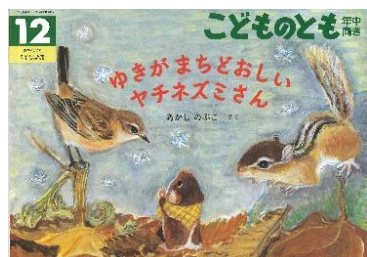
くんくん すぴすぴ…犬のニコはいろんなにおいを嗅ぎます。
くんくんすぴすぴ お土産のにおい。くんくんすぴすぴ
ねこのにおい。くんくんすぴすぴ 犬はお尻のにおいをかいでお友だちになるそうです。はなちゃんもニコとお友だちになりたいくて、そっと手のにおいをかがせてあげました。

犬をよーく観察すると知らなかったことがたくさんありそうです。

くんくんすぴすぴ…私たちの周りのいろんなにおい…ニコをまねてみる？…



4歳児 「ゆきがまちどおしい ヤチネズミさん」



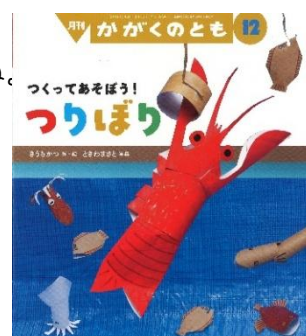
キツネやタカ、テンやフクロウが怖くて、畑のすみの草むらに
くらしているヤチネズミさん。寒くて南へ飛びたつノビタキや
雪が嫌いなリスが不思議に思うけど、ヤチネズミは雪が待ち遠しい
ようです。あつめた草を噛んで糸にして、雪を待ちながらきれいな
織物を織っています。雪は少しずつ降り、とうとう窓が埋もれる
ほど雪は積もりました。きれいな織物とよもぎのお茶をつつみ、しっ
かりとからだに巻き付け、スコップで出口をつくり、雪の中をほってほって掘り進みました。ヤチ
ネズミさんは一体どこに出かけたのかな？寒くても心が温くなるお話です。

5歳児 かがくのとも 「つくってあそぼう！つりぼり」

玩具をつくって遊ぶ…

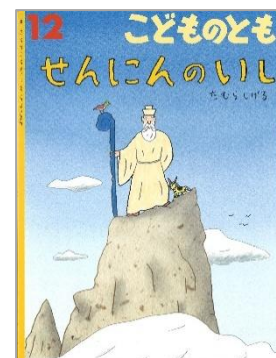
昔あそびはほとんどがそうですね。
子ども達が大好きな魚釣り遊び
で、魚だけでなくいろいろな
種類の生き物を作って遊びます。
釣り竿は磁石なんて使いません。

作るのも楽しい、釣るのも
面白そうです…やりたい気持ちになる絵本です。
どこにでもある材料なので、家庭でも楽しめます。
遊びを作り出す力こそ「生きる力」ですね。



5歳児 「せんになのいし」

ボノさんは玄関の前に大きな石を見つけました。
庭に捨てても、森に捨ててもその石はボノさんの
家の前に戻ってきます。困ってもっと遠くに捨てよ
うと、トラックで遠くの海へ行き、
捨てました。帰ってみると
石は家の前には戻っていません。
「やった いしはうみのなか」
安心したボノさんが家に入ると
濡れた石はテーブルに。なんと
「ハクション」と声がする…。
この石、いったいどんな石？



～今月のセクション～

「サンタさんからきたてがみ」

クリスマスの前の日、ネズミの郵便屋さんがはりきって
手紙の配達に飛び出します。「うわっ」急ぎ過ぎたネズミさんは
すってんころりん。すると、大切な手紙が雪の中に飛び出しました。
慌てて拾い集めたのですが、1通の宛先が雪に濡れて読めなく
なっていました。



困ったネズミさんに気づいた森の動物たちが
一緒に考えているうちに、なんと「サンタさん」からの手紙だとわかって大慌て。
さあ、手紙にはなんて書いてあったのでしょうか？
動物たちが力を合わせて素敵なお話を迎えるお話です。



12月と言えば「クリスマス」な感じですが、日本の文化に関する絵本も読んでほしい。「十二支のはじまり」実は幼児さんの劇遊びに取り入れられるくらい、子ども達も大好きな絵本です。干支を順番通りに言える？…大人もちょっと怪しなったりしますよね。この絵本は、干支の順番だけでなく、どうしてこの動物たちになったのか…も教えてください。

「十二支のしんねんかい」は語呂のよい言葉やユーモラスな言葉に乗せて、干支の紹介と

干支のみんなで新年会の絵本です。温かい絵も楽しめます。

「おせち」…おせちの絵本？と思いがちですが、意外と人気の絵本なんですよ。



～えほんだより 11月号～

0歳児・1歳児

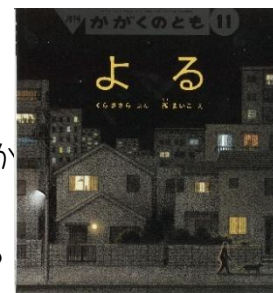
「とことこ くまさん」

くまさん くまさん とことこと 子どもたちの大好きな
くまさんが森の中をとことこお散歩しながら、秋の
「おいしいもの」をみつけに行くお話です。
とことことこ がりがりがり み一つけた
テンポの良いことばがたくさん。公園などをお散歩するときに、絵本のフレー
ズのように感じたものを音にして、目と耳、リズムでお話を楽しみましょう。



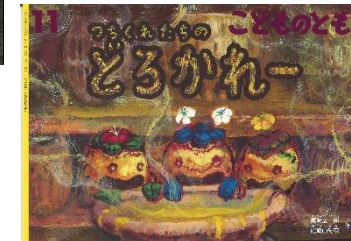
5歳児 かがくのとも 「よる」

当たり前に毎日訪れる「よる」
子どもたちにとってよるはちょっと
怖く、でもよるに出かけるとなんだか
いつもよりちょっとドキドキしちゃう。
そんなよるにみんなが眠っている
間、公園や商店街、線路、信号は
みんなと同じように眠っているのかしら。大人にとって
は当たり前のことも、子どもたちにとっては知らないこ
とばかり。新しい気づきになりそうな1冊です。



5歳児 「つちくれたちの どろかれー」

ある公園の寒い朝。つちのかたまり
「つちくれたち」のお話です。
土の中にあるつちくれたちが集まる秘密のお店
のおいしいどろかれーが食べたくて、ちいさな3人
が奮闘します。ちょっと
あきらめたくなった時
もあったけれど、さあ
おいしいどろかれーは
どうなったかしら？



2歳児 「ちいさな しろい こねこちゃん」

足の一つが痛いかわいそうなこねこちゃん。もりのおいし
さん ふくろうせんせいにみてもらうために ひとりよたよた
あるいていきます。ふくろうせんせいによると「おやゆびがま
しろだ」って。でもね、先生にみてもらったら うちまでぴよん
ぴよんかけてくれたの。
さあ、ふくろうせんせいはどんなことをしてくれたのかな？

3歳児 「みんなの かきのみ」

この季節、給食でも登場する「かき」。木になっている柿を
どれくらいの子がしているかしら。
自然いっぱいのおばあちゃんのおうちに遊びに行って、
木になっている大きな柿を見つけました。木になっている柿を
見た時、柿を触った時、ふんずけちゃった時・・・小さな経験に
大きな発見がいっぱいです。おばあちゃんちの柿だけれど、
自然の中みんなが食べに来る・・・だから「みんなのかきのみ」なんだね。



4歳児 「あいうえどうぶつ おやすみなさい」

あいうえおおあくび うさぎです・・・あいうえおと動物をマッチン
グしたことば遊びの絵本です。
子どもたちの知っている動物たちですが、動物たちを表現するこ
とばは目新しく、絵はやさしい世界を作っています。
そろそろひらがなに興味を示す年齢。絵本をまねて、親子で違っ
たことば遊びの絵本作りも楽しめそう。
「おやすみなさい」で、寝る前の読み聞かせにもぴったりの絵本です。

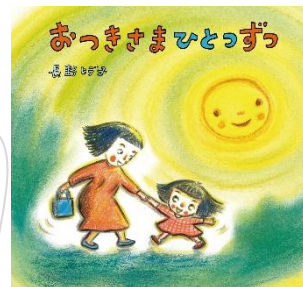
～今月のセクション～

「とらっく とらっく とらっく」

乗り物の絵本？？乗り物にはあまり興味がないからな・・・表紙からはそんな感じを受ける絵
本です。確かに乗り物の絵本ですが、なんだか自分がとらっくに乘っている・・・のではなく、と
らっくになった気持ちになる絵本です。
走っている時のとらっくから見えるほかの働く自動車や景色。そして
とらっくが走っている時のとらっく自身の気持ち。
調子に乗り過ぎておまわりさんに叱られた時の運転手さん・・・
を近くで見ているとらっくの気持ちが伝わってくるようです。
お話の主人公が生き物ではなくても、お話の中でなりきって、
その時の気持ちを自分のことのように感じられるのが
絵本の面白さですね。



保育室からとってもかわいいお話が聞けました。10月号3歳児クラスの絵本「おつきさまと
さんぽ」を子どもたちの前で職員が読んだ時のことです。読み終わった後に
「ぼく、昨日お月さま見たよ」「私も見たよ」「ぼくも・・・」「保育園の近くでもみたけど、おうち
の近くでもみたよ」「あれ？お月さまってたくさんあるの？」
大人には当たり前の出来事ですが、この「不思議」が大事。大人に言われて「そうなんだ」
では終わらず、「あれ？」「なんで？」そして「知りたい」・・・これこそが学びの芽生えです。
そして、お月さまのこんな絵本も合わせて読んでみては・・・
お月様が1つだと気づいていない女の子の絵本です
あこちゃん、おかあさんと一緒にかえります。「おかあさん、ア
フリカにもおつきさまある？」「あるわよ」あこちゃんはほっとしまし
た。「おつきさまがみーんなにひとつずつあって、よかったね」
あこちゃんはあんしんしてかえりました。
心が温くなるお話です。





～えほんだより 10月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「ペンペンぽろろん」

子どもたちの大好きな「音」と「繰り返し」を楽しめる絵本です。題名になっている「ペンペン ぽろろん」はペンペン草を表した音。

「ととととと ととととと」という単純な音や、「ぽっぽこ ぽこぽこ ぽこんぽこん」と真似をするにはちょっと難しい音まで。音に合わせて読み手の表情がかわるのも楽しそうですよ。「なんのおと」…答えまでのドキドキ感が大好きです。

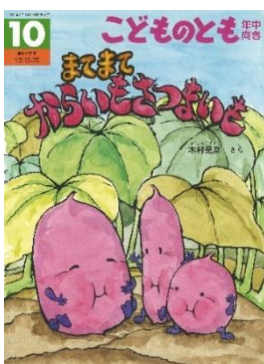


2歳児 「たねをたべた けもの」

けものが種を食べたら、からだからによきによき木が生え、花が開き、生き物たちまで…なんと背中が森になりました。「怖い」と「ふしぎ」が入り混じった絵本です。3歳を迎えるころには、現実のような空想のような…そんなお話も楽しめるようになってきます。「スイカの種を食べると、スイカが生えてくるよ」ちょっとそんな言葉を思い出しました。

3歳児 「おつきさまと さんぽ」

子どもの頃、だれもが一度は不思議に感じた「お月様がずっとついてくる」。秋は空気が澄んで、月がきれいに見える季節。お月見にぴったりの絵本です。夜が早く訪れる季節になりました。帰り路に「本当についてくるのかな??」って親子で楽しめそうです。その不思議が、月、星、地球、宇宙…なんて興味が広がりそう。空には不思議がいっぱい。昼間と夜だけじゃなく、季節によっても変わりますね。



4歳児 「まてまて からいもさつまいも」

ごろり、ほっそり、どっしりのさつまいも 3人組のお話です。芋ほりにくる子どもたちのために 3人組が準備をしていると、いのししに見つかり一番大きな「どっしりさん」が連れていかれてしまいました。ごろりとほっそりの2人が頑張っどっしりさんを助け出すお話です。いのししはどっしりさんを焼きいもにしようとしています。さあ、2人のさつまいもたちはなかまを助けられるのかな??最後に秋の味覚がもう一人登場します。

5歳児 かがくのとも 「リレーするじどうしゃ」



はたらくくるまのお話で、道路や公園がきれいに整備されるまでのお話です。私たちが日ごろ気にせずに歩いているきれいに舗装された道路や、きれいにならされた公園の広場。たくさんの働く人と、いろいろな種類の働く車によって作業が行われています。街中では見られない大きな自動車がほとんどです。身の回りの当たり前は、実はいろいろな人や道具、機械によって造られている…そんなことを知るきっかけになる1冊です。

5歳児 「くまちゃんのごはんです」

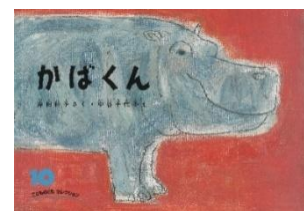
絵本の醍醐味、現実とファンタジーの合体です。遊んでいるうちに遠くにとんでいってしまった紙飛行機。ときちゃんの飛行機。ずっと一緒にのめいぐるみのくまちゃんが「ぼくの出番」とばかりに紙飛行機を探しに出かけるお話です。大好きなときちゃんのためにたくさん走って水の中までじゃぶじゃぶなんとか紙飛行機をみつけました。あれあれ??からだが重くて動けません。くまちゃんはどうしたのかな…??ヒントは「ぬ・い・ぐ・る・み」です。



～今月のセレクション～

「かばくん」

子ども達に人気、ロングセラーの絵本です。一見、小さい子向けに思いがちですが、細部にまで目が向けられる表現がされているため、「あっ、ほんとだ。下駄の子がいる」「わあ、キャベツが丸ごと入る大きな口」。「あぶく」の大きさに目を向けるなど、幼児はもちろん小学校低学年の子でもその楽しみ方は色々のようです。「どうぶつ＝小さい子」と決めてしまうのは大人だけ。絵本の楽しみ方は無限…それを見つけるのも絵本の楽しみ方の1つです。そして、小さい時に何回も読んでもらった絵本は、いつでも、いつになっても読んでもらっていた時の「うれしくてあたたかい気持ち」にしてくれます。



先日、ある保育園の「絵本の実践報告」を聴く機会がありました。

その保育園は病後児保育園です。風邪などの症状は引いたけれど、保育園の登園はまだちょっと難しい…でも仕事は休めないし…の時に利用できる保育園です。

体力も完全ではないし、いつもと違う保育園にちょっと緊張ぎみのAくんは2歳の男の子。泣くことはないけれど、保育士さんとはちょっと距離を取って表情も固かったそうです。

「どんなおもちゃが好きかな?」「ブロックする?」…そんな声をかけても、きゅっと閉じたお口は少しも緩みません。「絵本はどうか?」と保育士さんが絵本棚の方を指さすと…「あっ!「だるまさんが」だ」「Aくんのほいくえんにも、だるまさんあるよ」と、急に表情が明るくなり、大きな声がでました。そして、保育士さんが読み始めると、お膝にちょこんと座って、「どてっ」「びろ～ん」ページをめくるごとに表情は明るくなっていったそうです。絵本はどこにあっても変わらない。だから安心できる「心のよりどころ」になります。大好きな絵本は、初めての場所をいつもの保育園と同じ「安心できる場所」に変えてしまう魔法の力をもっています。

だるまさんが





～えほんだより 9月号～

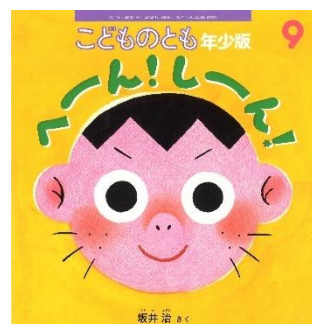
【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「きってみよう」

ぱかっ とんとんとん ざくざくとんとん
やさしくリズムカルな音の表現。

子ども達は大好きです。音を真似したり、
リズムに合わせてからだや手を動かしたり
ばくばく食べる真似をしたり。

いろいろな楽しみ方ができます。そして、なんといっても元気と柔
らかさのある色調。五感で楽しめる絵本です。



2歳児 「へーん！しーん！」

へーんしーんの掛け声で、ひげがはえたり、しましま模様
になったり・・・あれあれ？？ほんのちょっと変わっただけな
のに、全然違うものになったよ！

なぞなぞ形式で、ワクワクドキドキしながら大人も子どもも
一緒に楽しめる絵本です。「へーん！しーん！」は一緒に掛
け声をかけちゃおう。まだ少し夏を感じる変身です。

3歳児 「ごりらのばあちゃん」

お年寄りゴリラにスポットを当てたお話は初めてです。

ゴリラと言えば力強さのイメージですが、

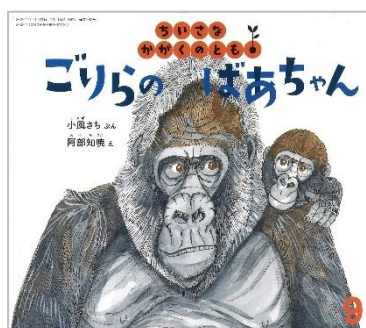
おばあちゃんゴリラは人間のおばあちゃんと同じようです。

このお話を通して、家庭の中の、そして子どもにとっての

おばあちゃん存在を感じます。とくに、3歳から4歳と

いえばお兄ちゃん、お姉ちゃんになるちょっとした寂しさを

経験する子も。そんな時におばあちゃん存在は絶大ですね。



5歳児 かがくのとも 「さかなのおそうじ屋さん」

ホンソメフケベラという魚のお話です。海には大き
な魚から小さな魚までたくさんいます。大きな魚の方
が強く威張っているかと思いましたが、なんと、小さ
な魚に助けってもらうこともあるようです。

それがからだや口の中の「おそうじ」です。

飲み込まれそう・・・と心配になるけれど

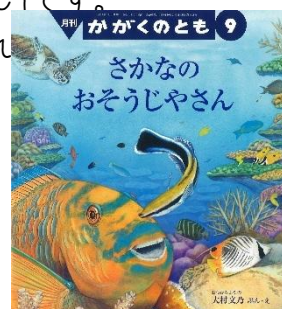
お掃除をしてもらう魚も、間違っ

て食べられないように

「あーん」と口を開けたまま

気を付けているようですよ。

海の生き物の不思議です。



5歳児 「すうじむらのおみせ」

1から10までの数字たちがお店屋さんをしていま
す。「数」ではなく「形」に似たものを売っているよう
ですよ。5歳になればそろそろ数字や文字に興味
が広がります。どちらも最初は「形」。記号やマークの
ように興味をもて覚えて

身の回りや
街の中に、「すうじ」
に似た形をみつけて
みましょう。商品を
みつけられなかった
4のよんちゃんに

おしえてあげるといいかもね。



ぐりとぐら



～プラスワンのご紹介～ 「ぐりとぐら」

大人も知らない人はいないほどの名作「ぐりとぐら」

50年以上も前に出版された絵本です。

ぐりとぐら ぐりとぐら・・・という響きがとても耳心地がよく、また食
べることやクッキングが大好きな子は特に楽しんでいるよう
です。この絵本にでてくる大きなカステラ。「作ってみたい」と挑
戦する親子さんもたくさんいるようです。

子ども達はぐりとぐらのように、自分も森の中を散歩したり、楽しいことに出会ったりして、絵本
の中で素敵な体験をしています。(したような気持ちになっています)

3歳からが対象になる絵本ですが、大人になってこのシリーズを読み返し、いくつになっても
楽しめるぐりとぐらです。ちなみに、私は「ぐりとぐらの1ねんかん」が大好きです。あそびの杜図書
室にもあります。大人にお勧めします。

保育園の貸し出し
絵本もたくさん利
用してください。
希望の絵本があれ
ばリクエストを。
みんなで「あそび
の杜図書館」をつ
くりましょう

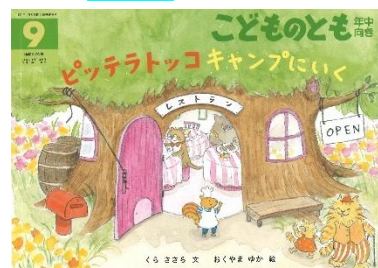
AI やチャット GTP、授業ではタブレットが使われ、絵本もタブレット収納で、読み上
げまでしてくれる時代。読書離れがどんどん進んでいます。子ども達は大きくなる
につれ「自分の好み」が出てきます。その選択肢の中に「本を読む」ことが入って
ほしい・・・私はこの思い1択です。ある大学の理学療法学科教授のことばです。

読書は関心を探り、想像力を養い、脳を活性化し、語彙力を高め、人に伝える力を培
う。これらは保健・医療・福祉の 専門職にも必要な能力であり、あえて本を「読む」と文章に向き合う時間を大切にすることをお勧めする。

たくさんの可能性を持つ子どもたちが、自分の選択した夢に
向かっていくその時にも、実は「読書」は大きな力の土台となります。



4歳児 「ピッテラトッコ キャンプに行く」



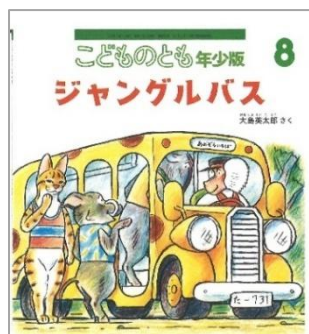
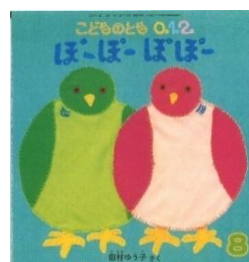
湖に到着した時にはリュックの中の材料が空っぽです。リスさんどうする？

～えほんだより 8月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「ぽーぽーぽー」

はとが1羽いました。ちょっとさみしかったけれど、もう1羽きて2羽になりました。うれしくてぽーぽーぽー。2羽で巣をつくり、たまごが生まれましたよ。ぽかぽかの日も雨の日もたまごをあたえました。するとたまごがうごいたよ。ぴきぴき ぴきき…。
絵や写真と違う、やわらかくあたたかい絵本です。

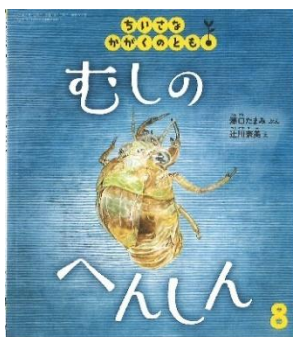


2歳児 「ジャングルバス」

運転手はマントヒヒ、お客さんはイボイノシシとヤマネコ、ハシビロコウに牛カモシカ。終点の「あおぞらいちば」まで買い物に行くためにバスに乗っています。
そのあとも次々にバス停でお客さんが乗り込んできます。キリンにワニになまけもの。最後は大きなゴリラまで。満員バスの中はどうなってるの？

3歳児 「むしのへんしん」

男の子が外でへんてこな虫をつかまえて、おうちに連れ帰ったお話。へんてこな虫は蟬の幼虫です。
高い場所に上って、動かなくなって、気付いたらセイになっている。そんなセミの不思議が絵本になっています。
公園でつかまえたセミ。その近くでみかける「ぬけがら」時期によってセミの種類が変わりますが、親子で探し行くと、絵本のように羽化するところを見られると楽しそうですね。



4歳児 「かみちゃんといしちゃん」

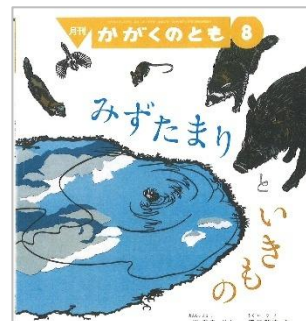
紙ちゃんと石ちゃん。まったく違う性質のものが友だちになるお話です。2つが遊んでいる中に、紙と石の性質が上手に組み込まれています。薄い紙も筒状にすると強くなって重い石がのってもつぶれないことや、風に飛ばされそうな紙の重しになる石など、日常の中で何気なくやっていることがお話になっています。

お話の最後は、濡れてしまった紙が石の上でひと休み。すると紙ちゃんが…

5歳児 かがくのとも

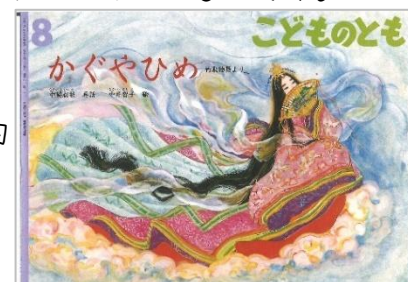
「みずたまりといきもの」

生き物にとって水はとても大切。森の中にできた水たまりを、色々な生き物がそれぞれに関わる姿が描かれています。
飲み水として、水浴びとして小鳥から獣まで、水たまりはその形を変えながら生き物の役に立っているようです。
子ども達も水たまりが大好き。街の水たまりと森の水たまりは違うけれど、街の水たまりも鳥や虫にとって大切な場所なのかもしれませんね。



5歳児 「かぐやひめ」

日本最古の創作文学といわれている竹取物語を幼児向けに再話した本格的なかぐや姫のお話です。
いろいろな絵本が出版されている今ですが、日本の昔話は子どもたちに知ってほしいものです。
大人の私たちもよく知っているお話。日本画の特徴的な色彩は視覚からも楽しめます。
この1冊が昔話を楽しむきっかけにしてほしいです。



～プラスワンのご紹介～ 「すいかのたね」

おひさんピカピカひかってうれしい日に、ばばあちゃんはにわにすいかのたねをまいたんだ。

そんなばばあちゃんの様子を見ていた子猫がスイカの種を掘り返し…がっかり。そんな子猫の姿を見ていた子犬が種を掘り返し…がっかり。またまた、その子犬の姿をみていたウサギが種を掘り返し…がっかり。でもね、実はこの時種がブルブル震えたのをウサギは気付きませんでした。



ウサギの様子を見ていたのはきつねです。きつねも同じように掘り返し…がっかりしてポイッ。その時、種がガチガチ ガチガチ言ってたんだけど、キツネは気がつきません。キツネが何かを埋めた様子を見ていたばばあちゃんが掘り返し…がっかり。その時自分がスイカの種をまいたことを思い出しました。「いいかげんにめをだしておおきくおなり！！」ばばあちゃんのことばにスイカの種は「あったまにきた。」さあ、スイカはどうなったのかな？

保育園の貸し出し絵本もたくさん利用してください。
希望の絵本があればリクエストを。
みんなで「あそびの杜図書館」をつくりましょう

暑さ厳しい毎日です。この時期しかできない水遊びを楽しんだ後は、ちょっと静かに絵本タイムです。自分の好きな本を選びながら、好きな場所で絵本を楽しんだり、「先生、よんで～」と選んだ本をもって来たりして過ごします。

子ども達に「絵本のどんなところが好き？」と聞いてみました。
「先生が読んでくれるから」「いろいろなお話がおもしろい」
「見たことない虫とかがある(見られる)」
「本を見て遊べるところが好き」「絵がかわいい」 子ども達はそれぞれの表現で伝えてくれました。

絵本を大好きな子はいても嫌いな子はいません。

それが「絵本」の魅力です。





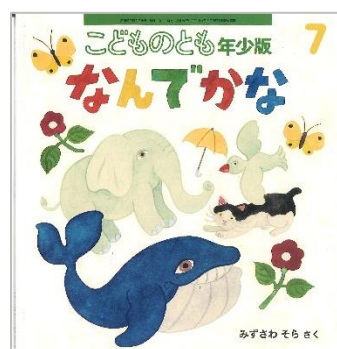
～えほんだより 7月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「にゃんころたいそう」

猫の親子が体操をしています。

ごろーん にゅーっ にゃんころにゃんころ
ぐーぱーぐーぱー 大きな口をあけたり、ごろん
としたり…優しい色彩で優しい絵。
音を十分に楽しんだら、ページに合わせてからだ
を動かすのも楽しそう。いろいろな読み方ができ
そうです。

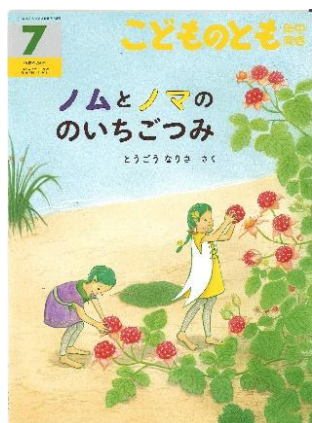


2歳児 「なんだから」

ぞうさんのおはながながいの なんだから…？
から始まって、いくつもの「なんだから？」
身近な動物たちの「なんだから？」は 2歳児さんには
ちょうどいい「なんで？」「どうして？」の時。
絵本でたのしみながら親子で「それはね…」と楽しめ
るような絵本です。

3歳児 「なつにみつけた いいものいくつ？」

なつにみつけた…季節のお話のようですが、それだけ
ではなく「数」。これはなにかな？いくつあいくつあるかな？
4歳になる子どもたちは、だんだん数を理解してきます。
お勉強のように学ぶより、生活や絵本の中で楽しみなが
ら「数」を知る…生きた学び、知識になります。



4歳児 「ノムとノマの のいちごつみ」

森にすむ小さなひとたち ノムとノマがナワシロ
イチゴ(のいちご)つみにでかけるお話です。
笹舟をつくり出発するのですが、途中で船に水が
入ってしまったり、枯葉や草にのりあげたり…。
やっとの思いでナワシロイチゴを採り、笹舟に乗
せて帰る時。バッシューン！とつぜん目の前に
大きな水しぶきが…。

5歳児 かがくのとも

「くらべてみよう いろいろなかみ」

生活の中でいろいろ見かける「紙」柔らかさや厚さ、
でこぼこ…よく見ると色々な種類があるね。

クレヨンで色を塗ったり、
折り曲げたり、破ったり

丸めたり…

紙の種類によって違いがいっぱい。
このちょっとした気づきが、
次への「やってみよう」につながり、
「知る」ことの楽しさにつながります。
実は面白いって身近にいっぱいあるんですね。



～プラスワンのご紹介～ 「たなばた」

たなばたの話って知っていますか？7月7日は七夕で、おりひめさま
ひこぼしさまのお話だということは子ども達も知っているようです。
保育園でも七夕に合わせて短冊に願い事を書き、笹飾りにします。

この絵本は幼児さん向けで年齢によっては少し難しいかもしれませ
ん。でも、たなばたという身近な言葉で子ども達はきっと興味を持って聞いてくれることでしょ
う。ひこぼしとおりひめの素敵なお話…と思っていたのですが、うしかいのちょっといたずらが
始まり。そして、実は子どもがお母さんであるおりひめに会える日が七夕のようです。
絵本の最後にこう書いてあります。

たなばたに あめがふるのは おりひめがながすなみだなのです。

なつのよぞらに ひろくみえる あまのがわ

そのりょうがわに つよくきらめくひたつのほしが うしかいとおりひめです

そして うしかいのそばにふたつ ならんだちいさなほし

あれが ふたりのこどもたちです

保育園の貸し出し絵
本もたくさん利用し
てください。
希望の絵本があればリクエストを。
みんなで「あそびの
杜図書館」をつくり
ましょう

幼児棟の子ども達にとって「としよしつ」で過ごすことが日常の一コマになっています。

日々、給食後のはみがきがおわると食休みとして図書室で過ごす…という時間をと
るようにしていますが、それが生活の一部になったと実感したことがありました。

先日「早朝散歩」の行事があり、その日はみんなで豚汁朝食をたべました。
なんと、子ども達は朝食を食べ終わると大人に何か言われたわけでもなく、
図書室で絵本を選び自分で読んだり、読んでもらったりしていました。

子ども達にとって絵本を読むことが身近になってきたと感じたうれしい瞬間でした。





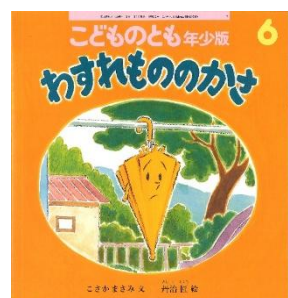
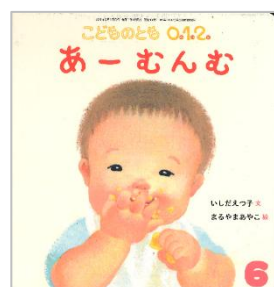
～えほんだより 6月号～

【今月の絵本紹介】

0歳児・1歳児 「あーむんむ」

あーむんむ あーむんむ・・・ご飯をおいしそうに食べる赤ちゃん。うれしい顔、びっくりした顔。どんどん上手に食べられるようになるよ。

離乳食が始まったのちゃんや、自分で上手に食べられるようになった子どもたちにぴったりの絵本です。最後は一緒に「ごちそうさまでした」のいいお顔。



2歳児 「わすれもののかさ」

公園に忘れられた黄色い傘。誰もお迎えに来てくれないから、自分で家に帰ることに・・・。

飛んだり浮かんだり、カタコト タタタ、トトと大冒険です。ちょうど長靴を履いたり、傘を自分で上手に持てるようになったりする2歳児さんにぴったりのお話です。

傘もみんなと同じようにお家に帰りたいよね。

3歳児 「すうる すうる ぴたん」

誰もが通りかたつむり飼育。女の子がうちで飼っているかたつむり(でんでんむし)の「でんちゃん」のお話です。くっついていいる場所に合わせ、からだを動かすかたつむりの様子が目に浮かぶように描かれています。ニンジンを食べる姿には「ほんと??」「そうかも」…大人はそんな気持ちになります。

子ども達はきっとかたつむり探しにいきますね。



4歳児 「あめのひのえんそうかい」

6月と言えば雨。そんな季節にぴったりのお話です。

風の吹く雨の日は、いろいろな音がする。

音を楽しんでいると、次々に動物も来たよ。

鳴き声や水たまりの音をみんなで合わせていくと、楽しい演奏会のように。気分よく演奏会を楽しんでいるとだんだん音が小さくなり

…雨が上がりました。すると・・・気がついたらみんなもいなくなっていました。

夢?ほんと?絵本ならではの楽しさのあるお話です。

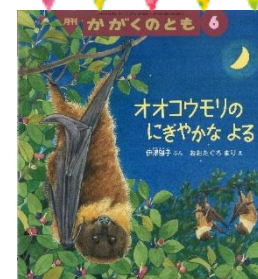
いろいろな音を試してみたくになりますね。

5歳児 かがくのとも

「オオコウモリのにぎやかなよる」

沖縄に生息するオオコウモリの1日が描かれています。活動は夜。

ガジュマルという木の実が大好きなオオコウモリは、近くにほかのオオコウモリが来ると怒ってしまうほど食いしん坊です。そして、羽を伸ばすとなんと1メートルもあることや、いつもぶら下がっているコウモリたちがおしっこする時はなんと……。自分の住む日本だけれど、知らないことっていっぱいあるね。これをきっかけにいろいろ調べたら楽しそう。



5歳児 「そうじきにまちがえられたそう」

そうじきこうじょうの こうじょうちょう

そうじきにそっくりなぞうの工場長のお話です。おやつを食べてウトウトしていたら、新米の作業員に掃除機と間違えられ、箱詰めされてお店で売られてしまいました。こんなに掃除機っぽいぞう(笑)

買われていった家では掃除機として使われる工場長。その家での出来事や、工場長と気づかれるまで、ずっと楽しいお話です。

この絵本、大好き。



～プラスワンのご紹介～ 「ぞうくんのさんぽ」

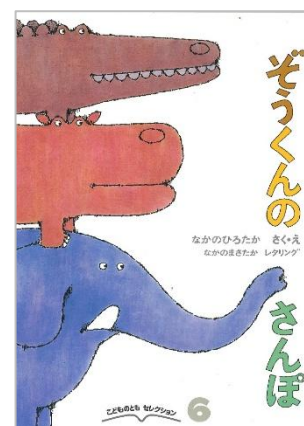
子ども達が大好きな定番の人気絵本です。ちょっとのんびり屋でひとのいいぞうくんがみんなを散歩に誘って出かけます。「ぞうくんはちからもちだね」

ちょっとうれしいけれど「ちょっとおもいな」って。

かばくん、ワニくん、最後にかめ君を乗せたら・・・どぼーんって

みんなで池に落っこちた。でもね、天気がよくていい気分。

みんなで一緒に楽しいね。



先日、図鑑絵本が保育園の図書室に仲間入りしました。

この時期は戸外遊びが盛んになり、外から戻ってきたときには、子どもたちはいろいろな虫や木の実、お花や野草を手にとって帰っていきます。最大の被害者(笑)はやはり「ダンゴムシ」です。小さなプラスチックケースを手に出かけていき、帰りにはころころコロコロ……。プラケースの底は丸い物体でいっぱいです。「だんだんむしつかまえたよ」と、捕まえた子もそうでない子も嬉しそう。「かうの?」「なにをたべるの?」そんな相談をしながら、結局元の公園に逃がしてあげるようになったようです。実は、乳児棟の目の前が公園なのですが、捕まえたのは別の公園。「仲間がいるはずだから元の公園にもどしてあげよう」と

担任の先生の発案だそうです。なんてやさしい・・・。

絵本を見て「このむし、さがしにいこう」とか、捕まえてきた虫と絵本を見比べながらあれこれと調べたり……。子どもたちは上手に絵本を利用していますよ。絵本があそびにつながるって楽しいですね・・・

保育園の貸し出し絵本もたくさん利用してください。希望の絵本があればリクエストも。みんなで「あそびの杜図書館」をつくりましょう





～えほんだより 5月号～

【今月の絵本紹介】

子どもは、絵本の中に入りこんで一緒に体験しています。大人になってからでは絶対にできない、不思議な経験を絵本の中に入っていることができます。

0歳児・1歳児 「だーれか だーれか」

「ぶんぶんぶん だーれか だーれかいませんか」
そんなフレーズを繰り返しながら、はちが友だちを増やしていきます。これからの季節に見られそうな虫がでてきます。子どもは見つけてもらうのが大好き。「だーれかだーれかいませんか」と探してあげると楽しい遊びが始まりそう。



2歳児 「かいけっこ」

ゴールを目指して走ったり、坂を駆け下りたり上ったり、もちろんジャンプも上手になる2歳ごろの子ども達にはピッタリのお話です。絵本を何度も読んだ後に、絵本のフレーズを使いながらからだを動かすのも楽しそう。動物たちの表情が楽しい絵本です。

3歳児 「わたしのむしとり」

この季節になると、子ども達の虫取りがはじまります。一人前に(?)虫取り網をつかって虫取りに挑戦するころ。大きな道具に振り回されるけれど、こんな経験で使い方を知ったり、虫取りの楽しさを知ったりするのかしら…ね。



4歳児 「どろんこ どろっちょ」

はるくんが泥だんごづくりに苦戦しています。どうやってもうまくできません。すると泥の中から「どろっちょ」が現れます。「かわきすぎ」「みずがおいよ」って教えてくれて、その通りに作ったら上手にできました。もう1つ作ったら…あれあれ、どろっちょがいなくなっていました。
泥だんご作りは、子ども達にさせたいあそびの1つ。公園の土では難しいのだけれど、是非、親子で挑戦してほしいです。



5歳児 かがくのとも

「あまがえるーたんぼのうたー」

あまがえるの1年を描いたお話です。最近おたまじゃくしも見られなくなりました。きっと最近の子どもたちはかえるは「川」で見かけるようです。でも、かえるといえばたんぼなんてすよね。

たんぼのある地域では、梅雨から秋にかけてかえるの合唱がきこえます。この本で知りました。(私だけ?)あまがえるといえば緑色だと思っていましたが、まわりにあわせて色が変わるんですって…



5歳児 「ひでのひみつ」

なんだか昔話のようなお話ですが、田畑のある地域の日常の出来事。家の仕事を当たり前の手伝っている子、広い畑で転げまわりながら遊ぶ子。そんな日常の中に、親ひばりと子ひばりの親子の姿や、親やぎと子やぎの様子などがそっと描かれています。地方のことは「方言」がたくさん出てきます。お子さんへの読み聞かせ前にぜひ「予読」をして、方言に慣れておくとも面白さ倍増です。



絵本って…

絵本にはよく

「読み聞かせなら〇歳から、自分で読むなら△歳から」と示されています。そのため、大きくなったら赤ちゃん絵本は卒業…と考えがちですが、赤ちゃん向けの絵本は、こんどは字が読めるようになったら自分で読むにはちょうどよい文字数です。単純な文章なので、文字を拾ってことばの意味を読み取ることもしやすいですね。

赤ちゃん当時にその絵本を読んであげた時のお子さんの姿など話してあげるのもうれしい時間になるはずです。



～プラスワンのご紹介～

「ちいさなねこ」

ちいさなねこにとっては、全てが大きな世界。家の中にいたこねこが大冒険。家の外は、車も犬も大きくて、怖くて驚くことだらけでした。大きな犬にほえられて木の上に逃げたこねこ。こねこの声を聞きつけたお母さんねこが助けにきてくれました。

小さい子向けの絵本にもなりますが、ねこの生体は描かれている絵本でもあり、そして、最後は「やっぱりお母さんの近くが一番あんなにできるね」という優しい気持ちになる絵本です。

お母さんねこにくわえられて連れていかれるときのこねこの顔にワスっとします。

安心感を得た時の呆然とした表情のようです。



～絵本だより 発行について～

絵本だよりにはおおまかなあらすじや、どんな遊びができそうかな…などを載せていきます。今月号はどんなお話をお知らせすることで、絵本が手元になくても、お子さんとの話題作りに役立てていただければと考えています。

分園では、食後や夕方の自由遊びの時間など、図書室で過ごす子がふえてきました。図書室の一角は看護師さんの場所でもあるのですが、看護師さんにもたくさん絵本を読んでもらっています。同じ絵本でも、読み手によってその面白さが違うようです。絵本の楽しみ方は奥が深いようですよ。乳児棟の子ども達も、活動の合間に先生に読んでもらう絵本が大好きな様です。

保育園の貸し出し絵本もたくさん利用してください。希望の絵本があればリクエストを。みんなで「あそびの杜図書館」をつくりましょう





～えほんだより 4月号～

【今月の絵本紹介】

子どもは、絵本の中に入りこんで一緒に体験しています。大人になってからでは絶対できない、不思議な経験を絵本の中に入ることができるのです。

0歳児・1歳児 「みんないいおかお」

「わんわん」「にゃあにゃあ」

なじみのある動物のお顔から始まり、最後は赤ちゃんのかわいいお顔。「〇〇ちゃんこっちむいて」と名前を入れて読んで（呼んで）あげるとうれしそうです。



2歳児 「おやつですよー」

6ぴきの子ねことママねこちゃん
笑顔になれる子ねこのなまえです。

みんなでおいしいものを作ります。

2歳になると大人の真似がしたくなる…

真似から新しい「できる」「やりたい」が生まれるはずです。

3歳児 「おみずでおえかき」

4歳になる年齢には、身の回りの「ふしぎ」に
きづきます。今月は、身近にある「水」。乾いた
場所に水をたらすと「おやおや？」・・・
「あっ、きえた！」

この絵本を読むと、すぐにやってみたくなりそ
う。これからの季節、楽しめそうです。



4歳児 「せっしゃはにんじゃ」

「せっしゃはにんじゃ 〇〇にんじゃ」

まきものくわえて だろんだろん」

テンポとリズムがなんだか楽しい。

お話も楽しいけれど、動きを付けながらリズ
ムを楽しむこともできる絵本です。

5歳児 かがくのとも

「スーパーじっけんマツンアワサール」
年長さんになると「知的好奇心」が
むくむく…

でも、科学的ですごく難しい…

というお話しでもなく、現実的な

実験ではできないけれど

「もし〇〇と××が合体したらどうなると思う??」という想
像力をかきたてられる絵本です。「じゃあさ、▲▲と■■がが
ったいするとどうなる??」なんてあそびが広がります。



～絵本の扱い方～

0歳児のころから絵本に親しみ、

玩具ではない「絵本」の扱い方を見せてい
くと、本をぽつと投げたり、踏んだりしなく
なります。

「大事にしようね」という気持ちを伝えていき
ましょう。「また読もうね」と本を片付けるよ
うにしていくとよいでしょう。

「上手にしまえたね」と

声をかけてあげると

一層気持ちが伝わります。



～保育室から～

「子どもたちに絵本のある環境を」という思いで、昨年度はこれまで以上に日々のあそびや生活の中に絵本を取り入れてきました。新年度になり、新しく担任をもった保育士さんから同じような声が聞こえてきました。それは「ふだんちょっと落ち着きがない子も、絵本が始まると真剣な顔をして聞いている」ということです。

「どの子も絵本が大好きで、絵本を読み始めると**すごく集中してきいています**」

1歳児クラスの保育士談。まだ1歳児なのに…と驚いていました。

たった1年、環境や大人の意識をかえるだけでも、こんなに子どもたちの姿が
変わるんだと実感しました。電子機器、動画が手軽な時代だからこそ、
せめて就学までの6年間は、大人の声の心地良さとページをめくるわくわく感、
そして絵本の中の世界を楽しんでほしいと感じています。 大人にも絵本好きになってほしいです。

5歳児 「バルバルさん もりへいく」

子ども達が大好きな
「バルバルさん」シリーズです。
弟子入りしたおさるさんの
アイデアで困りごとを
どんどん解決して、
バルバルさんの手助けを
していくお話しです。



お客さんになった動物や人間の手伝いを
するおさるさん。絵本だからこそその楽しさが
いっぱい詰まっている1冊です。

～プラスワンのご紹介～

「めっきらもっきら どおんどん」

へんてこな世界に迷い込んだ「かんた」のお話
しです。ちょっと怖いけれど、ときどきする大好きなおばけがでてきます。

子ども達に人気の絵本。その理由の1つがくりかえしててくる異世界
への「フレーズ」です。気になる方はぜひ読んでいただくとよいと思いま
すが、この絵本を読んだ後は、そのフレーズを口ずさみたくなるよう
です。

日常と異世界がつながっていることのおもしろさ。躍動することばと絵
が子どもたちを存分に楽しませてくれるファンタジーの絵本です。

今月の「こどものともセレクト」がこの絵本でした。大人が読んで
も楽しい絵本で、私もハードカバーの本を持っています。



保育園の貸し出し絵本も
たくさん利用してください。
希望の絵本があればリク
エストを。
みんなで「あそびの杜図書館」
をつくりましょう